

## 詩集 『虫のいる散歩道』

齋藤慎一郎・著 揺籃社



林を歩いていても、いろいろな虫に出会える季節、生きものの命が輝いているこの頃です。そんな時に、さっき見た虫のことは何と書いてあるかな・・・とページをめくりたくなる本が、『むしのいる散歩道』です。説明では全くなく、その虫の生きざまを詩にうたいあげてくれているのです。それも、よく知られて

いるカブトムシとかメジャーな虫だけでなく、かなりマニアックな虫もちゃんと出てきて、ああ、そうだよな！ と共感できるところがたまりません。

でも、今からの季節では、さすがに嫌な蚊が出てきます。虫好きの著者は何と歌っているかな？ と、見てみました。

“・・・

かいかいかい かいかいかい  
こんちくしょう！ “

とあって、やっぱり、ピシヤン！ とやっていたのかな？ と思わず笑ってしまいました。

<虫の部>だけでなく、<植物の部>、<生きること・考えること>の詩もあります。

「平和」という詩には

“・・・

壊そうとする力との戦いで  
地上でもっとも意義のある  
創造“

とあり、平和とは待っていて得られるものではなく、創っていかねばならないのだという著者の強い気持ちが伝わってきました。

(小川)